

宇都宮市立宝木小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがあると思いますか」という設問に対する肯定割合は全国平均より10.6ポイント高い。修学旅行や各クラスで実施している称賛活動等で自分のよさを実感できる機会があり、自己肯定感がもてていることが分かる。今後の活動においても、自分のよさや成長が実感できるように、互いを認め合う機会を設けていきたい。

○「人が困っているときは、進んで助けていますか」という設問に対する肯定割合は97.1%で、全国平均と比べても5.5ポイント高い。授業中の活動でつまづいている人がいると一緒に考えてあげたり、下級生が怪我しているのを見て、保健室に連れて行ってあげたりと普段の生活や授業の中で、相手を大切にしようとするについて考え、指導してきた成果と考えられる。人のために行動できた人を称賛活動等で認め合う場を設けると、よりよい学級の雰囲気作りや自己肯定感の向上にもつながることから、今後の学習や生活において自分から進んで取り組むことができるよう、支援していきたい。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という設問に対する肯定割合は98%と高く、全国平均と比べても1.1ポイント高い。普段の生活や道徳の授業で、繰り返し指導し、いじめはやってはいけないことだと理解できていると考えられる。自分の行動がいじめにあたるかもしれないと客観的に判断し実行できる実践力に結び付くよう、きめ細かな目配りと支援を実施していきたい。

●「新聞を読んでいますか」の設問の肯定割合は、全国平均より4.7ポイント低く、全く読まない児童は82.4%いる。インターネットなどの普及により、活字離れが進んでいるためと考えられるが、視野を広げたり、様々な意見や内容に触れられたりするという点からも、新聞を読む機会を学校の教育活動の中にも設けていく必要があると考える。国語や社会などの学習において新聞を取り入れ、様々な情報メディアのよさを感じられるようにしていきたい。

●「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の設問に対しての肯定割合は56.8%で全国平均より1ポイント低い。少しずつ地域の行事も戻ってきているので、児童が進んで参加できるよう地域と協力していきたい。

●「学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」では、1時間以上学習時間を確保している児童が、全国平均より1.3ポイント低い。学習内容の確実な定着を目指すためには、家庭での学習時間の確保が必要である。今後は、家庭学習の必要性を児童だけでなく、学年だより等で保護者に周知することで家庭にも協力してもらい、家庭で学習する習慣を身に付けさせていきたい。